

第1章 計画策定にあたって

1 策定の趣旨

第3次下田市観光まちづくり推進計画（以下「本計画」という。）は、令和3年度から令和7年度までを計画期間とした第2次計画の後継として、過去5年間の取組及び社会動向を検証し、それを踏まえて令和8年度から令和12年度までの次なる5年間における観光振興の基本的指針を示すものです。

近年、日本を含む世界において少子高齢化・人口減少が進行し、観光地を支える担い手の減少が顕在化しています。また、令和2年度から5年度にかけての新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンド旅行の急減や国内観光の制約が生じ、本市の観光産業も大きな影響を受けました。一方で、令和5年度以降は国内観光需要の回復及び訪日外国人客の増加が見られており、観光を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした状況のもと、地域の魅力を持続的に磨き上げ、発信し続けることが求められています。

前計画である第2次下田市観光まちづくり推進計画は、観光まちづくり推進に向けた個別施策を位置付けるアクションプランとして策定しました。しかし、コロナ禍をはじめとする社会環境の急激な変化により、対応しきれなかった施策が生じたことや、設定した目標指標と実態が大きく乖離したことなどから、進捗評価が困難となる状況も見られました。これらの課題を踏まえ、本計画は、日々変化する観光客ニーズや社会情勢に柔軟に対応し、必要に応じた分野横断的な取組や新たな事業創出を可能とする枠組みとします。5年間のマスタープランとして役割分担と施策の方向性を明確に示し、その方向性のもとでアクションプランを策定し、具体的事業を推進していきます。

また、施策の進捗管理については、客観的な数値指標による評価に加え、市民及び観光客の意向調査、行政及び観光事業関係者による定性的評価を組み合わせで行います。数値目標の達成を目的化させることなく、想定外の事象にも柔軟に対応できる運用を図ります。

最後に、本計画は、第5次下田市総合計画の部門計画として、まちの将来像「時代の流れを力につなげる下田新しい未来」の実現を目指すとともに、「下田市グローバルCITYプロジェクト」の方向性のもと、世界に通じる魅力と持続可能性を備えた新しい下田の創出を図るものです。

本市の観光の価値は、日常の生活や風景に来訪者が触れ、参加できることにあります。また、過度な演出に頼ることなくとも、来訪者に非日常を感じさせる魅力を有している点が本市の特徴です。こうした特性を生かし、観光産業の振興と誘客を図るとともに、まちづくりや地域の生活との共存を前提とした持続可能な観光を推進します。さらに、本市の国際性を生かした人材育成や地域外人材との多様な関わりを持続的に創出する「観光まちづくり」としての方向性を明確に位置付けます。

2 計画の位置付けと期間

計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とし、社会・経済・自然環境の変化等により、見直しが必要になった場合は、第5次下田市総合計画等と整合を図って見直すものとします。